

2014.5月号 特別号

メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

INDEX

1. 那珂川温泉旅行に行ってきました
2. アルツハイマー病研究会
3. 朝日新聞に記事が掲載されました

1. 那珂川温泉旅行に行ってきました



5月11日（日）から一泊二日で栃木県にある那珂川温泉に行ってきました。ふるさとの会の施設や地域にお住まいの方など合計17名の方が参加されました。天候にも恵まれ水族園などを見学した後は旅館での宴会など大いに盛り上がりました。

2. アルツハイマー病研究会

今年で15回目となる学術シンポジウム（4月19日）は、認知症の専門家を中心に、アルツハイマー病をはじめ認知症に関する最新的话题を多角的な面から話されます。トラックセッションの一つ「本人の意思を尊重する形とは」（座長 こだまクリニックの木之下徹院長、東京都健康長寿医療センター研究所粟田圭一研究部長）に、ふるさとの会理事の滝脇が参加しました。都立松沢病院の齋藤正彦院長「認知症初期支援のあり方—患者のニーズに答える医療—」、こだまクリニック/NPO法人認知症当事者の会の水谷佳子氏「認知症の人の声—医師とわたしの物語—」、高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ

の宮島渡総合施設長「認知症ケアパスの形」に続き、「4重苦（単身、高齢、貧困、障害・認知症）のセイフティーネット」と題して発表を行いました。



発表者の滝脇憲理事

3. 朝日新聞（4月26日）に記事が掲載されました

オピニオン

誰も見捨てない

路上生活者や社会弱者を助けるには結局は行政だけでは、心身ともに問題を解決、人間関係をくづれず、福祉施設から受け入れられず居る人々を救済する必要がある。東京・山形の若者支援施設「ふるさと」の理事長水田恵さん。理事長水田恵さんは、表紙を通じて新たな社会課題を語った。

——若者の「働けない」も、大々大々しい行政の支援は必要で、その人々を救済する必要がある。水田恵さんは、自ら運営する施設「ふるさと」で、路上生活者や社会弱者を助けるには結局は行政だけでは、心身ともに問題を解決、人間関係をくづれず、福祉施設から受け入れられず居る人々を救済する必要がある。東京・山形の若者支援施設「ふるさと」の理事長水田恵さん。理事長水田恵さんは、表紙を通じて新たな社会課題を語った。

福祉施設さえ拒む ホームレスら支援 凍った心を溶かす

47年兵庫県生まれ。90年「ふるさと」を設立。現在は同会の顧問や、更生保護施設「再歩会」理事長を務める。




[詳細はこちら](#)

発行元：特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6-4 F
 TEL：03-3876-8150
 FAX：03-3876-7950
 E-mail：info@hurusatonokai.jp
 HP：<http://www.hurusatonokai.jp/>